

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第51回 北海道博物館大会 7月5・6日函館市で開催

平成19(2007)年以来、5年振りとなる函館での博物館大会となる今回は、前回のテーマ「博物館の底力ー地域の魅力を引き出し、活かす博物館ー」を継承発展させ、「博物館とまちづくり」をテーマとして開催いたします。

昨年3月に発生した東日本大震災による地震・津波等による被害を考えると、地域のあり方を根本的に考え直す必要があるものと感じられます。そうした情勢の中、博物館が地域に果たせる役割を改めて考えてみたいと考えています。

○第1日目(7月5日・木)

午前中は総会・表彰式を行います。総会では、ここ数年来協議を重ねてきた「あり方検討委員会」から北海道博物館協会の今後のあり方について報告があります。

午後からの特別報告では、日本博物館協会と北海道教育庁から日本と北海道における博物館行政の現状と課題について報告をいただくとともに、アジア歴史資料センターのデータベース利用についての紹介と、釧路市立美術館の瀬戸厚志氏から、博物館資料のレスキュー活動について報告があります。昨年9月に被災文化財救援委員会による「文化財レスキュー」に参加し、盛岡市内の仮施設において陸前高田市立博物館の被災美術資料の救出活動に携わられた際の体験を語っていただきます。

シンポジウムでは、五稜郭タワー株式会社の中野晋氏、箱館歴史散歩の会の中尾仁彦氏、伝統的建造物旧相馬邸の東出伸二氏、知内町郷土資料館の高橋豊彦氏から個々の事例を発表いただき、地域におけるまちづくりと、まちづくりに博物館が果たせる役割について討議して行きたいと考えています。

○第2日目(7月6日・金)

二日目は施設見学会です。

平成22(2010)年度までの史跡の総合的な整備により新たな姿となった五稜郭に関連する2館と、昨年開館した縄文文化の博物館を巡るバス見学会となります。

【五稜郭タワー】

平成18(2006)年に建て替えられ高さ107mとなった新五稜郭タワー。旧タワーよりも倍の高さ90mの展望台からは、五稜郭の星形を見下ろせられるだけでなく、函館山や津軽海峡など周辺の眺望を臨むことができます。

展望台の展示スペース「五稜郭歴史回廊」では、五稜郭や箱館戦争の歴史をわかりやすく解説しています。また、1階のアトリウムには箱館戦争で活躍した土方歳三の銅像や、箱館五稜郭祭や函館野外劇で使用されている復元大砲なども展示しています。

【箱館奉行所】

幕末の箱館開港により築造された五稜郭は、江戸幕府が設置した箱館奉行所の外郭施設で、その中央には奉行所庁舎がありましたが、明治維新期の箱館戦争で破壊され、その後明治はじめに解体されました。文献資料に基づいた部材・工法で、全国各地の職人による日本伝統の建築技術により復元された箱館奉行所は、平成22(2010)年の開館以来50万人以上の来館者が訪れ、函館の新たな歴史文化の拠点として注目を集めています。

【函館市縄文文化交流センター】

平成19(2007)年に北海道初の国宝に指定された中空土偶(愛称カックウ)を常設展示する博物館で、南茅部地域の縄文文化を紹介しています。

昨年10月にオープンして以来、半年間で3万人以上の見学者が訪れています。

定期的に開催する講演会・講座等の他、勾玉づくりやアンギン編みなど縄文文化に関する体験学習も常時開催し、平成27年度の世界遺産登録を目指す北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群の情報発信を行っています。

(市立函館博物館 学芸員 野村祐一)



北海道で最初の集治監を展示 月形樺戸博物館リニューアルオープン

昭和48年に開館した北海道行刑資料館。樺戸集治監本庁舎を使い、当時の貴重な資料を展示していました。平成8年、博物館本館を新築し、農業研修館を含め3館を結んで月形樺戸博物館と名称を変更しました。それから15年が経過した今年4月、リニューアルオープンしました。

改修のテーマは「光と影」。北海道の歴史だけでなく、日本の歴史に深くかかわってきた樺戸集治監(現在で言う刑務所)をより多くの人に理解してもらえるように、幕末・明治維新の歴史から勝者と敗者の「光と影」、囚人による道路開削を進めたことで屯田兵や移民が入植できるようになり北海道内陸部の開拓を進めた「光と影」を中心に展示替えをしました。

数少ない1次資料をもとに2次資料となるCGやジオラマ、映像、キャプションを制作し、より理解できるようにしました。短期間でタイトなスケジュールの中進められた今回の展示替えは、かかわった人たち皆が知恵を絞り、気持ちのこもったものになったと自画自賛! 苦労話もたくさんあります。ここまで仕上がったのは、展示業者や関係者のご協力の賜物です。



リニューアルオープンした展示室

この展示替えを行ったことで、博物館活動を今後どのように進めていくかが課題です。集治監の話は、子どもには少し難しいテーマです。しかし、これからの日本をどのようにしていくかは、子どものときから学んでおかなければなりません。歴史を知ることから、生きる糧を学んでもらいたい。その一つが、樺戸集治監の歴史だと思っています。

私たちの住んでいる北海道内陸部は、囚人と呼ばれた人たちによって道路開削され、開拓の基礎が築かれ発展してきたと言っても過言ではないと感じています。このことは、決して負の遺産ではなく「功績」として月形樺戸博物館で伝えていきたい。

(月形町役場 産業課商工観光係長 野本和宏)



第2回郷土学講座を 開催しました

平成24年2月18日道南ブロック博物館施設等連絡協議会主催「第2回郷土学講座」を開催しました。134名の参加者があり、会場の函館市中央図書館視聴覚ホールはほぼ満席となりました。

2回目となる今回の郷土学講座は、昨年開催した第1回の郷土学講座のアンケートで希望の多かった「自然」を題材に、「道南の自然を知る一山と人のつながり」をテーマに掲げました。道南の博物館施設の学芸員4名がそれぞれの町の自然や遺跡、そこに関わる「人」をテーマに講演を行いました。

道南では自然系の学芸員は必ずしも多くないことから、報告者の多くは、専門外の分野での報告となり苦労をしていたようです。

道南ブロックの博物館学芸員が結集して提供している郷土学講座は今回で2回目となります。前回、今回ともに函館市開催とし、多くの市民の方に参加をいただいています。今後も継続開催し、道南の恒例のイベントとなるように内容を改善していきたいと考えています。

また、函館市内での開催が続いていることから、一定数の参加者を得ていますが、函館市域以外の地域での



134名の参加者が詰めかけた郷土学講座

開催も試み、道南の博物館の活動に興味を持つ市民を一人でも多く増やしていければよいと考えています。

それぞれの博物館の活動の多くはそれぞれの自治体単位となるため、市町村域外に活動領域を広げることは難しいのが現実です。しかし、住民の方々にとっては、道南地域は生活圏として一続きの行動圏となっていることから、「道南」という単位に興味や関心が向くのはある意味当然といえるかもしれません。郷土学講座の取り組みが、市町村の枠を超えて「郷土学」に関心を持つ住民の方々の学習意欲に応えることができれば、単館で行う事業とは別に道南ブロックの連携事業として大きな意味をもつものと考えています。

(厚沢部町郷土資料館 学芸員 石井淳平)



国際姉妹都市交流を振り返り

昨年度、幕末に仙台藩士が駐留し陣屋を築いた経緯による宮城県仙台市との姉妹都市提携が30周年を迎えた。仙台市より市長らを招き、赤松の植栽をはじめとした記念式典が挙行された。町の歴史にとって大きな節目となる年となったが、実はもう一つ、同様に30周年を数えた交流事業があった。

昭和44年、森林資源の豊富な白老で北海道工場を操業していた大昭和製紙(現・日本製紙)は、やはり膨大な森林面積を誇るカナダへの進出を図り、ブリティッシュ・コロンビア州ケネル市に現地企業との合弁会社を創設した。これが切っ掛けとなり、市議会において白老町との姉妹都市提携が議決されたケネルからの申込みを受け、町議会においても提携を採択した。そして昭和56年7月に至り、遙か太平洋を跨いだ二つの地域が国際姉妹都市としての調印書を交わし、よりいっそうの交流を促進させていくことが宣言された。以来、代表団の相互派遣による文化交流、町職員派遣による研修、英語指導助手の招へいといった交流が続けられてきたほか、小中学校でもケネル市内の学校とそ

れぞれに姉妹校提携を結び、手紙の遣り取りや記念品の交換などを行なってきた。

提携30周年を数えた2011年度の晩冬、仙台藩白老元陣屋資料館ではこれまでの交流の軌跡を振り返るべく、各学校協力のもとに展示会を実施。例年この時期に開催する"歴史と文化のまちPR展示会"を舞台に、各学校に保管されていた姉妹校交流の記念品や町の式典などで送られた品々を展示し、町内外へ郷土史の発信を図った。およそ150点もの資料が集まり、企画した我々にとってもいい意味で驚きだった。とりわけ子ども達の贈り物には手作りによる温もりが感じられ、同時に贈り物に対する感性の違いを認識させられた。感受性豊かな子ども達が、交流の経験を異文化理解に活かしてくれるなら喜ばしいことであるし、これからの事業に関わる子ども達の交わす友情の証が、今後どのように積み重ねられていくか楽しみでもある。姉妹都市交流の意義と期待を絶えず実現させるためにも、来町するケネル市の子ども達を"陣屋資料館"として歓待するのはもちろん、いずれ10年後・20年後の節目を迎えたとき、"町の資料館"としてその軌跡を残さず迎えるよう準備しておかなければならないだろう。

(仙台藩白老元陣屋資料館 学芸員 平野敦史)



博物館活動の広域連携 ～宗谷管内連携企画の取り組み～

【道北地区の取り組み】

道北地区3管内(上川・留萌・宗谷)では、毎年、地区ブロック単位での巡回展を開催している。昨年度は富良野市博物館の制作による「シマフクロウ展」を巡回し、たくさんの観覧者から好評をいただいた。また、旭川市博物館が中心になって普及講座を相互に体験する研修を進めており、各館に活用されている。

一方、広大な道北3管内の博物館職員が日常的に交流し、情報交換するのは難しい。また、日本海に面した留萌地方と内陸の上川地方、そして最北の宗谷地方では、それぞれの置かれた自然環境や歩んできた歴史が大きく異なる。宗谷管内では道北3管内の連携とは別に「宗谷の地域性」を広く伝える取り組みを10年ほど前から始めている。

【宗谷管内の連携企画】

現在、宗谷管内の1市8町1村に配置されている学芸員は8名(6市町)。道内の他管内と比べても決して少なくない。また、20～30代の「比較的」若手の学芸員が多いことも特徴だ。このうち人数の多い歴史系の学

芸員が中心となって様々な連携企画を行ってきた。平成18年の連携企画「伊能大図を歩く」では稚内市が中心となり、伊能大図のうち宗谷の部分巡回展示した。平成20年の「宗谷の狛犬」では、地域の民俗文化財をテーマに5人の学芸員が手分けして管内の数百の神社を悉皆調査し、巡回展につなげた。この時の調査成果は、利尻富士町の山谷文人学芸員が取りまとめ、利尻町立博物館の『利尻研究』に掲載している。さらに、昨年度は北海道大学総合博物館とも連携し、「樺太展」を開催している。

【広域連携によって広がる可能性】

昨年度の「樺太展」では25枚の解説板を5人の学芸員で分担執筆し、パネルの印刷や展示資料の作成も役割分担することで、展示にかかるコスト(時間・費用)を大幅に削減することができた。また、複数の学芸員が展示に関わることで、資料に対する視点が変わり、より展示内容を充実させることができたと思う。

職員や予算に限りのある地方の小さな博物館にとって、広域連携は博物館活動の充実に欠かせない取り組みに成長しつつある。今後も様々なテーマごとに積極的な連携を進めていきたい。

(オホーツクミュージアムえさし 学芸員 高島孝宗)



帯広百年記念館 特別企画展「発掘された十勝の遺跡」 企画展「写真が語る帯広の街並み」を開催

開拓団体の晩成社が現在の帯広の地に開拓の鋤をおろした明治16年、それからちょうど百年目にあたる昭和57年に、帯広百年記念館が開館しました。今年帯広市は開拓130年、帯広百年記念館は開館30周年を迎えます。これを記念して、8月4日から9月30日まで、特別企画展「発掘された十勝の遺跡～十勝平野の人類史3万年～」を開催します。十勝平野で繰り広げられた3万年におよぶ人類史を、管内の遺跡出土品の展示を通して紹介します。期間中には、特別企画展関連講演会「考古学のいま」や、考古学セミナー「十勝の考古学



特別企画展



街並み展

最前線」を開催するほか、子どもから大人までご好評をいただいている体験教室「じょうもん人と腕くらべ～勾玉作り・石器作り～」を行います。晩成社がこの地を訪れるよりはるか昔、太古の人々が生きていた証を展示から垣間見ていただくとともに、3万年におよぶ人類史を紐解き、体験することもできる事業となっています。

開拓130年記念事業としてこのほかにも、7月中旬から8月中旬まで、企画展「写真が語る帯広の街並み」を開催します。この企画展では展示室を百年記念館から「街中」へ移し、昭和の帯広の街並みを写した写真を展示します。街中を歩く人々に、帯広がどのように発展してきたのかを紹介し、古きよき昭和の街並みの写真から、懐かしさ、そして今を生きる私たちが忘れていた何かを感じとっていただければ幸いです。

(帯広百年記念館 学芸員 伊藤彩子)



美幌博物館 平成23年度企画展 テーブルの上のホネ展 ～ようこそ ホネホネ食堂へ～

平成23年度、美幌博物館では「テーブルの上のホネ展」を3月25日(日)～5月27日(日)に開催。美幌町は勿論、オホーツク管内でも見られる野生動物の骨格標本をはじめ、職員手作りの幻の魚イトウの全身骨格標本、フライドチキンから作られたニワトリの骨格標本も展示。

今回の展示の素晴らしさは、展示会名に現れている。骨格標本といえば、不気味なイメージ。骸骨。実験室に人体模型とともに並ぶ風景。人として嫌悪感を抱くかもしれない難しいテーマである。

ところが、表題は「テーブルの上のホネ展～ようこそホネホネ食堂へ～」というユニークなもの。ポスターも標本写真を一枚も使用することなく、赤と黄色を用いた暖色系の色合いを使用し、子ども達を誘う油絵でできた絵本のようなイラスト。しかしながら、本展示会のテーマを余すことなく表現しており、ゴールデンウィークを含む開催期間、子どもが多数訪れる催し物の宣伝媒体として秀逸。

展示室は明暗に差のある二つの部屋に区切られている。明るい部屋には、9ピースのフライドチキンのホネを組み合わせたニワトリの骨格標本や、食品サンプルのよ



「テーブルの上のホネ展」ポスター

うにお皿やレンゲに乗った魚の頭部の骨格標本など食卓に上る身近な食材のホネを展示。

見学後、抽選でステッカーが当たるクイズラリーや、複数のホネの絵スタンプを選び魚やカエルなどを完成させるホネスタンプ。顕微鏡で覗くと魚の耳石が観察できる体験コーナーを設置。

一方、動物の本格的な骨格標本はあえて暗幕の向こう側の暗室に置き、差別化を図っている。貴重な標本を暗めの室内で間接照明を使用して幻想的に照らし出すことにより、標本の陰影をはっきりさせるとともに、野生動物の尊厳を重厚で美しいものとして表現していた。

全体をとおして、子どもは勿論、大人まで、食に対する心構え、生命に対する心構えを楽しく学べる展示となっていた。

(紋別市立博物館 業務係長 小番宗幸)



平成24年 北海道博物館協会 「学芸職員部会」へのご案内

今年度の学芸職員部会は10月11、12日の両日、北見市で開催されます。平成18年、北見市は常呂町、端野町、留辺蘂町と合併し、全国で第4番目に広い市になりました。これは香川県の3分の2にあたる面積であり、常呂町と合併したことにより、新北見市はオホーツク海に面することになりました。

そのオホーツク海沿岸には竪穴住居跡が数多く遺されています。会場となる常呂町にも史跡・常呂遺跡があり、竪穴住居群は古代を彷彿とさせます。現在は根室管内の標津町の遺跡群と併せて世界遺産登録を目指していますが、両遺跡には7,000軒以上におよぶ世界有数の竪穴住居跡があります。

また、遺跡に隣接するワッカ原生花園は、明治の文豪大町桂月がその景観から竜宮街道と名付けたほど美しく、スケールの大きな海岸草原です。皆様をお迎えする10月は、さんご草が湖畔を赤く染め、その上を様々なアカネトンボが飛び交い、白鳥やオオワシなどの旅鳥たちが大陸からの長旅の途中に羽を休め、美しい紅葉に染まる季節です。

今回の研修会では、博物館活動に求められる基本的



史跡常呂遺跡(窪地に残る残雪)

技術と、それに基づく応用力を獲得することを目的とし、総合技術研修「博物館資料の立面・俯瞰撮影ワークショップ」と、自然分野技術研修「植物同定・標本作成技術」という欲張りな2コースを設定しました。

部会の長年のテーマとしてきた「地域学のすすめ」から更なる進展を目指して話し合った結果、博物館専門職員の「匠の技」が伝わらず孤立している職員が増える中、「専門技術を伝え、助け合う学芸職員部会」の原点に戻ろうという試みです

常呂町は、司馬遼太郎が「街道を行く」の中で、一縄文の時代には豊かな自然に恵まれた世界一いい場所だったと述べています。この研修を機会にオホーツク海の歴史や自然に触れ、豊かなサロマ湖や厳しい開拓のなかから生み出された山海の恵みを、ぜひご堪能下さい。

(北網圏北見文化センター 学芸員 柳谷卓彦)



市民に愛され親しまれて 来年50周年

昭和38年7月に開園したおびひろ動物園は、来年50周年を迎えます。4月に配属された私がまず始めに知ったことは、老朽化した施設を支える市民協働による支援活動でした。

毎年、開園前に行われる園内の清掃奉仕活動や獣舎などの塗装、園路の補修奉仕活動は、市民や企業の厚意によって長年続けられ、当園の運営に大きな力となっています。

また、おびひろ動物園協会やボランティアグループ(ZooFul)によって園内ガイドや子どもが安全に小動物と触れ合えるよう見守るボランティア活動が行なわれています。多くの支援によって運営されていることに感謝いたします。

平成22年に当園は、帯広畜産大学と連携協定を締結しました。これまでもインターンシップ受け入れや共同研究、飼育動物の解剖や行動調査などで協力を行なってきましたが、更に相互の教育資源を生かし、動物に関する研究や環境教育の充実、魅力ある動物園づくりをすすめようとするものです。

現在、アミメキリンのリボンに2世誕生の期待が高ま



2世誕生が期待されるリボン(手前)とムサン

っています。この妊娠判定と経過観察は、帯広畜産大学に協力を依頼して行なわれています。15ヶ月の妊娠期間を経て、キリンの親子がそろって入園者を迎える日も近いかもしれません。

とちか帯広空港の東京線のダブルトラッキングが実現(平成23年3月)し、道東自動車道の夕張-占冠間の開通(同年10月)により十勝と道央圏が高速道路で結ばれ、利便性が高まりました。

市民に愛されて50歳を迎えるおびひろ動物園が、インドゾウとフタコブラクダが見られる道内唯一の動物園として広く親しまれ、動物たちの誕生や死を通して命の大切さを学び、伝えられる動物園としてさらに成長したいものです。

(おびひろ動物園 園長 高橋利夫)



北海道立オホーツク流水科学センター による体験学習の取り組みについて

北海道立オホーツク流水科学センターの所在する紋別市は流水の南限である北海道のオホーツク海沿岸に位置し、近郊には森、川、海と豊かな自然がある。近年、当センターではこのような地域の自然を生かした体験学習を実施している。今回はこれらの活動を報告する。

体験学習のプログラムは様々であり、近郊河川では川の生きもの調べ、水質調査、川流れ体験、サケ・マス遡上観察会などを行い、海では主に安全に活動できる紋別市人工海水浴場を利用して潮干狩りおよびアサリの解剖実習、地引網体験、はこメガネによる観察、自作イカダ体験などを関係機関と連携して行っている。

また、近郊には渡り鳥の重要な中継地で、多様な草花を見ることができるところの湖見学会や、砂金堀体験なども外部団体との連携で行った。

この様な学習プログラムのなかで、とりわけ潮干狩り及びアサリの解剖実習は地元中学校の理科にて採用され、地引網体験は同じく中学校の総合学習にて継続して行っている。この際、フィールドワークのみの指導だけではなく、事後指導として学校での出前授業を行い、解剖の指導や、採集した生き物や環境についての



紋別市オホーツク青年の家との共同事業
「わいんどトレック」にて川体験学習

解説も合わせて実施している。

これらの活動は見て、触れて、感じることができる貴重な体験であり、そこから興味の増幅や学習の発展が見込めると考えられる。今後はこれらの活動プログラムをより一層充実させて継続していくため関係機関との連携をより密にして活動していきたい。

この活動をとおして、今後、子どもたちが成長しふるさとの紋別を語る時「海や川がある」だけではなく、「どの様な生きものが棲んでいて、こんな環境だ」と言えるよう願っている。

(北海道立オホーツク流水科学センター 学芸員 桑原尚司)



第20回 北海道美術館学芸員研究協議会

平成24年3月1日(木)、2日(金)、北海道立近代美術館映像室において「第20回北海道美術館学芸員研究協議会」が開催された。年に一度、北海道内の美術を中心とする分野の学芸員が一堂に会するこの協議会も、20回という節目を迎えた。平成24年3月現在、31館3大学5市町の学芸関係者が参加している。

1日目は総会ののち、東川町文化ギャラリー学芸員吉里演子氏、有島記念館学芸員伊藤大介氏の二名の新加盟会員の紹介がなされ、北海道立旭川美術館から「施設の経年劣化の現状と対策について」(井内佳津恵学芸課長)、北海道立近代美術館から「視覚障害者とミュージアムをめぐるシンポジウム報告」(中村聖司学芸第三課長)という二本の報告がされた。

この日の事業として特筆されるのは、藤宮峯子氏(札幌医科大学医学部解剖学第二講座教授)をお招きしておこなわれた20周年記念講話「芸術における死の超越」である。豊富な画像をご用意いただき、臨床における事例も参照しながら、「死」に代表されるような

大きな喪失体験はいかに乗り越えられるか、芸術はそれに対してどのような働きを持ちうるのかといった観点からご講話いただいた。

2日目は「エコール・ド・パリの装画本」(北海道立近代美術館柳沢弥生学芸員)、「美術館における漫画、アニメ展の変遷」(札幌芸術の森美術館吉崎元章副館長)、「<武四郎涅槃図>をめぐる」(北海道開拓記念館山際晶子学芸員)の3本の研究発表がなされたのち、日ごろの問題点として、デジタル温湿度計についての情報交換、大震災後の文化財レスキュー参加報告、美術館の運営方針の公表方法等についての意見交換などがなされた。

ところで、この二日間の日程の合間、一日目の夜には懇親会が賑々しく開催される。これこそ、年度末の多忙を極める時期であるにもかかわらず、全道から多くの学芸員が参集する理由ではないかとささやかれている。というのも、旧交を温めたり、新しい会員と知り合いになったり、特に小規模館で普段ひとりで奮闘している学芸員諸氏には、貴重な人間関係構築の場でもあるとうかがっている。今年も、初々しい挨拶あり、勇ましい演説ありの、盛り上がりを見せていた。

(北海道立旭川美術館 学芸課長 井内佳津恵)

館園の主な展覧会と普及事業 (H24年7~10月)

石狩

- 三笠市立博物館(01267-6-7545)
7/21~10/8 「化石のキセキ-化石のできかたを探る-」
7/22-7/29-8/5-8/19 自然観察講座(第2~5回)
7/28-8/11 体験学習「アンモナイトはどんな生き物」
8/4-8/12 体験学習「のそいでみようアンモナイトの殻の中」
8/12~15 化石レプリカ作りの体験・展示解説ツアー
8/13~15 化石クリーニング体験
●北海道開拓の村(011-898-2692)
7/20~8/26 特別展「北海道の気象観測140年」
7/20~8/26 夏・むら・ロマン(毎週末、大道芸人・豊職人・菓子づくりの実演等)
7/28~31 昔のくらし・しごと体験
8/9~11 わらそうりづくり教室
8/18 特別展関連講演会「北国のたから『雪』を科学する」講師：高橋南哉氏
9/30 年中行事「十五夜~お供え・お飾りづくり~」
9/15~17 秋のふるさとまつり
10/7-8 写真館で記念撮影
10/29-30 博物館ボランティアの集い2012
●千歳サケのふるさと館(0123-42-3001)
7/14~9/2 「きみたちはどこから来たの?~身近にいる外来生物展~」
7/21~8/26 おさかな写生大会
7/25-26 アクアリウム・ナイトツアー(小学校高学年~中3対象の宿泊体験)
8/4-5 アクアリウム・フチナイト(小学校低学年・家族連れ対象の夜の展示生物観察会)
●札幌市円山動物園(011-621-1426)
7/21-28,8/8-10,16-20,22-24,27 夜の動物園
9/15~17,10/6~8 秋まつり(いのちの感謝祭、ファン感謝祭)
10月(時期未定)動物特集ウィーク
●札幌市青少年科学館(011-892-5001)
7/25~8/19 夏の特別展「大恐竜展2012~恐竜対決!ティラノサウルスの10のヒミツ」(仮)
7/1~8/10のうち31日 夏の移動天文台
7/7,9/1-29,10/20 サイエンスジャーモ科学教室
7/7-8,9/8-9,10/13-14 ちびっこワークショップ
7/27~29,8/10~12,24~26,9/7-9,21~23,10/5~7,19~21 札幌市天文台夜間公開
7/11~13,9/7-14,21,10/10~12 出前サイエンス
7/14 桜井達講演会~ジョン・ネイピア対数誕生生物語~
7/15 夏の特別展バックヤードツアー~恐竜展の裏側のそいでみよう!~(仮)
7/21,8/25,9/29,10/27 プラネタリウム夜間特別投影
7/21,8/25,9/29,10/27 科学館天体観望会
7/27~29 親子天文教室
7/28 第30回気象講座
8/1-2 サイエンスジャーモ科学教室 夏休み特別編
8/1~5,8~12,16~19 夏休み工作会
8/12 夏休み天体観望会
8/17-18 宇幕付プラネタリウム
9/1 大人の科学教室
9/8-9 さっぽろ星まつり
9/11~10/16のうち29日 秋の移動天文台
9/14-28,10/12-26 詳しく学ぶ天文講座
10/20 中高生による科学教室
10/27-28 第7回環境科学展
●北海道近代美術館(011-644-6881)
5/19~7/8 特別展「大原美術館展 モネ、ルノワール、モリッアールから草間彌生まで」
5/19~7/13 コレクションへの招待-北海道近代美術館の名品100 Part2 新収蔵品展
7/20~9/9 蓬春、英遠、珠子-北海道が生んだ日本画の巨匠たち
アールデコの理想郷-ガラスにみる古典と装飾の美 ぶれるかたち
特別展「東山魁夷展」
9/15~11/11 特別展「藤田嗣治と愛宕都市パリー-花ひらく挿絵本の世紀-」
9/15~1/20 エコール・ド・パリの古典流儀
クリスタルグラスの輝き-17世紀ヴェネツィアから現代まで
美術講演会「東山魁夷 人と芸術」講師：横山勝彦氏
美術講座(展覧会観覧のポイントを解説)
8/17,8/31 コンサート 演奏：大森満子氏(札幌交響楽団第二ヴァイオリン首席奏者)
●北海道立文学館(011-511-7655)
6/2~7/16 特別展 いせひでこ絵本の世界-私の木、心の木
7/27~8/26 特別展 ファミリー文学館 怪奇幻想文学館-文豪たちのこわ〜い話
9/8~10/21 特別展 新美南吉生誕100年 こんぎつねの世界
7/1 映画鑑賞会「戸田家の兄弟」
8/1~8/3 夏休み文学道場「中・高生のための創作講座」
8/10-14,17 ファミリー文学館関連朗読会
8/19 映画会「雨月物語」
9/2 映画会鑑賞会「市民ケーン」
9/14 朗読会「新美南吉」作品の朗読
9/23 文学館まつり
10/6 文芸講演会「新美南吉-その作品の世界」講師：佐藤宗子氏
10/21 文芸講演会「漢字を愛した中国人-そのクールな哲学に学びたい」講師：武田雅也氏
●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)
7/4~8/26 アイヌの伝統工芸テンキ-ハマニクを編む
7/22 体験講座 勾玉作り
7/28 親子体験講座 テンキ編み(第1回)
8/4 親子体験講座 テンキ編み(第2回)
10/27 ウミベオロジ-石狩海辺学 会場：紀伊國屋書店札幌本店
●札幌芸術の森美術館(011-591-0090)
7/14~9/2 福田繁雄大回展
9/8~23 交差する視点とかたち
9/29~11/4 札幌芸術展パラレルワールド冒険譚
●北海道開拓記念館(011-898-0456)
7/6~10/8 特別展「アンモナイト展」
7/8 考古学講座「石器をつくる」講師：本吉春雄氏ほか
7/28-8/4-11-18 アンモナイトのレプリカをつくる!
7/29 アンモナイトを掘り出してみよう!
8/5 講演会「アンモナイトのなぞ」講師：重田康成氏

- 8/8 バス見学会「バスで行く化石観察会」(夕張市・三笠市)
9/2 歴史講座「北海道の住まい-過去から未来へ」
9/16 講演会「北海道のアンモナイト」講師：西村智弘氏
9/29 観察会「ひっつきむしを探してみよう」
10/7 講演会「頭足類ってどんな生き物?」講師：福田利幸氏
10/13 資料観察(ハンズ・オン)講座「手にとってみよう! アイヌの民具(木彫編)」
10/21 体験講座「自分の細胞からDNAを抽出してみよう」
10/28 歴史講座「海を渡ったアイヌの人びと」講師：宮武公夫氏ほか

空知

- 滝川市美術自然史館(0125-23-0502)
7/6~8 第20回白寿書道展
7/21~9/2 カメが見た太古の世界
9/12~17 道展中空知作家展
9/28~30 滝川書道展
●栗山町開拓記念館(0123-72-6035)
7月(予定) アイヌ文化を知る集い
10月(予定) くりやま歴史散歩

後志

- 小樽市総合博物館(0134-33-2523)
6/2~8/3 運河館小さな企画展「学校が伝える歴史 量徳小編」
●西村計雄記念美術館(0135-71-2525)
7/20~10/4 夏から秋の展覧会「西村計雄-絵と、ことばと-」
7/20~8/19 しりべしミュージアムロード共同展「ヘンシン!」
8/22~10/14 「山岸正巳-絵と、ことばと-」
10/18~3/10 開館13周年記念展「風景と対話-北海道、パリ、沖縄-」
7/26~8/19 夏休み!自由研究応援部隊
9/15~10/14 公募展「かなえてみたい!こんな夢」
10/27 開館13周年記念イベント
●木田金次郎美術館(0135-63-2211)
4/14~7/1 リニューアル記念 春の企画展「ようこそ!新しい木田金次郎」
7/5~11/4 没後50年特別展示「児島善三郎と木田金次郎 1893-1962」
7/20~8/19 しりべしミュージアムロード共同展「ヘンシン!」
9/15~10/14 私のまちの山岸正巳展
7/16 木田金次郎生誕祭(記念講演会「児島善三郎の芸術」・コンサート)
8/8 夏休みワークショップ
9/15 美術館講座「私のまちの山岸正巳」
9/22 秋のナイトオープン
●余市水産博物館(0135-22-6187)
7/18~8/26(予定) 平成24年度 余市水産博物館特別展「樺太と市川天涯」
7月(予定) 余市歴史探訪講座
10月(予定) 余市歴史教室
●財団法人北一ヴェネツィア美術館(0134-33-1717)
5/29~8/27 「ガラスの水族館-きらめく海と生命の躍動-展」
8/28~11/26 「レースガラス-ヴェネツィアの美しき至宝-展」

渡島

- 知内町郷土資料館(01392-5-5066)
7/28~8/12 昔の写真・絵はがき展-内地・外地の様子-
●北海道立函館美術館(0138-56-6311)
6/2~7/16 人間国宝 芹沢銈介展
4/7~7/16 リアルと幻想/石川啄木とその世界
7/25~9/2 ムーミンと仲間たち
7/25~9/9 〈夷酋列傳〉特別展示/万葉の美・古今の華
9/15~11/7 棟方志功展
9/15~11/7 「版」の風景/能書家の書
特別展セミナー「文字絵と絵文字-中世彩色写本から芹沢銈介まで」
美術映画会「レンブラント 光と闇の迷宮」
●市立函館博物館(0138-23-5480)
7/14~9/23 企画展「写された幕末・明治の函館」
7/20 宇宙と天体シリーズ「夏の星座を見てみよう」
7/21 親子で作る「ベタベタアート」
7/26 わくわく科学教室「ドライアイスで遊ぼう」
7/27 わくわく科学教室「親子でなまこを作ろう-シリカゲルって何-」
7/28 展示解説セミナー 企画展「写された幕末・明治の函館」
7/29 夏休み自由研究「ピンホールカメラを作ろう」
7/31 夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」
8/8 夏休み自由研究「昔の生活を調べよう」
9/8 夏休み自由研究「黒曜石で矢じりを作ろう」
9/9 アイヌの狩猟具「イバフケニ鹿箭-」制作体験
10/16~11/18 企画展「新収蔵資料展」
10/16 展示解説セミナー「新収蔵資料展」
●森町公民館郷土資料室(01374-2-2186)
10/20~11/18 鷲ノ木遺跡とストーンサークル(実施施設：森町遺跡発掘調査事務所)

胆振

- 仙台藩白老元陣屋資料館(0144-85-2666)
7/21~8/19 特別展「鉄道の起こり、産業の興り」
9/15~10/14 刀剣展(仮)
8/10 史跡積極活用プログラム「陣屋の日」
●財団法人アイヌ民族博物館(0144-82-3914)
7/8~9/17 特別展「イヌイトの壁か-カナダ極北からのメッセージ-」
●苫小牧市博物館(0144-35-2550)
7/14~8/19 「光から夢をたどって~印象派からエコール・ド・パリまで~」
6/23 芸術探訪「大原美術館展」
6/30 大学講座第1講「土の記憶」岡部昌生
7/21 特別展講演会
7/27 ナイトミュージアム
7/28 大学講座第2講「地層からひもとく津波」岡村聰
8/11 博物館クラブ「花のしおりをつくる」
9/15 自然観察会「苫小牧自然さんぽ」
9/29 土曜体験教室「土板をつくる」
10/20 札幌軟石たてもの見学会
10/27 博物館クラブ「緑線をつくる」

日高

- 沙流川歴史館(01457-2-4085)
 - 9/25~11/25 特別展「北海道指定記念『二風谷遺跡群出土のアイヌ資料』」
- 新ひだか町静内博物館(0146-42-0394)
 - 7/24~3/17 日高災害誌
- 日高山脈博物館(01457-6-9033)
 - 7/8 日高山脈ネイチャーセミナー2012 自然講座 日高の植物観察会
 - 7/22 日高山脈自然体験隊 川遊び&ダッチオープン調理
 - 7/26~28 日高自由研究サポーター 石ころ図鑑づくり
 - 8/11~12 日高自由研究サポーター 勾玉づくりと勾玉石さがし
 - 8/25 日高山脈ネイチャーセミナー2012 岩石地質講座 中級 岩石の分類
 - 8/26 日高山脈自然体験隊 沙流川ラフティング
 - 9/9 日高山脈ネイチャーセミナー2012 自然科学講座日高の動物観察会
 - 9/30 日高山脈自然体験隊 沙流岳ハイク
 - 10/14 日高山脈ネイチャーセミナー2012 岩石地質講座 上級 地質巡検
 - 10/21 日高山脈自然体験隊 おたから石発見隊

上川

- 富良野市博物館(0167-42-2407)
 - 7/21~8/26 写真展「北海道・人とかがわかる自然の姿」
 - 9/15~10/14 道北地区博物館等連絡協議会移動展「国境の島・樺太展」
 - 7/7 ワークショップ「アートを楽しもう!」第2回
 - 8/2 ワークショップ「アートを楽しもう!」第3回
 - 7/21 観察会 第3回「ヘイケボタル観察会」
 - 8/12 観察会 第4回「真夏の天体ショー ヘルセウス座流星群と夏の星々」
 - 9/15 歴史講演会「樺太アイヌと民族学者ヒウスツギ」(仮題)
 - 10/14 観察会 第5回「紅葉の森を訪ねて〜雪虫を探してみよう」
- 旭川市科学館「サイバル」(0166-31-3186)
 - 7/14~9/17 絶滅ほ乳類の世界展
 - 10/4~8 第45回科学の夢の図画コンクール
- 北海道立旭川美術館(0166-25-2577)
 - 7/4~8/26 彫刻家・佐藤忠良展-人間を探求し続けた表現者の歩み-
 - 7/4~11/7 福井爽人展
 - 9/4~11/7 愛のヴィクトリアン・ジュエリー展 華麗なる英国のライフスタイル
 - 7/4 「佐藤忠良展」講演会 対談佐藤忠良さんを語る
 - 7/14 「福井爽人展」講演会
 - 7/7・14・21・8/4 絵本「おおきなかぶ」よみきかせ
 - 7/28-29 造形まつり2012
 - 8月(予定) 夏休み工作市場
 - 9/4 「ヴィクトリアン・ジュエリー展」講演会
 - 9/26 「ヴィクトリアン・ジュエリー展」ティーセミナー&展覧会鑑賞会

宗谷

- オホーツクミュージアムえさし(0163-62-1231)
 - 7月 宗谷管内巡回展「宗谷のあけぼの〜江戸から明治へ」

網走

- 北海道立オホーツク流水科学センター(0158-23-5400)
 - 7/5~16 第11回紋別押し花の会作品展
 - 7/25~8/14 佐々木栄市写真展(仮称)
 - 8/4~31 わいんどとれっく展(仮称)
 - 8/11~14 いきいき陶芸会展示会
 - 8/17~26 生田孝子作品展(仮称)
 - 9/20~30 夏休み自由研究展(予定)
 - 7/21 わくわく科学教室
 - 7月下旬~8月中旬 夏のギザ祭り
 - 8月下旬 ギザ映画会
 - 9/15 科学教室
 - 9月中旬~10月中旬 企画展(予定)
 - 10/6~12/9 平成24年度海と船の巡回展
- 湧別町ふるさと館JRY(01586-2-3000)
 - 7/28~8/19 「研究者コレクション化石」(仮)
 - 7/28 講座「化石のことは福岡先生に聞いてみよう(子ども向け)」
 - 8/11 講座「化石のことは福岡先生に聞いてみよう(大人向け)」
 - 9月中旬 「文化財保護がかり② アックシソフ編」(フィールドワーク)
 - 10月中旬 「博物館宿泊体験 屯田兵屋に泊まろう!」(体験学習)
- 博物館網走監獄(0152-45-2411)
 - 4/28~9/30 特別展「行刑資料の足跡」展
 - 10/1~3/31 網走監獄「光と影」建築写真展
 - 7/14~7/30 刑務作業製品展示会
 - 7/29 夏休み体験講座「ペーパークラフトで重要文化財を作ろう」
 - 8/5 夏休み体験講座「染色体験」
 - 8/7 セタイイベント セタイ飾り作りと竹流しそらめん
 - 9/16-17 二見湖畔神社収穫祭
 - 9/30 十五夜ワークショップ
 - 10/14 講演会「樺戸集監勤務日記に見る北海道集監の歴史的背景」
 - 10/21 秋の自然体験 リース作り
- 美幌博物館(0152-72-2160)
 - 6/10~7/22 平成24年度企画展 寄贈資料展
 - 8/26~10/28 平成24年度特別展 不思議なトンボの世界展
 - 6/30-7/1 美幌博物館自然講座「植物パラタクソノミスト養成講座(初級)in美幌」
 - 7/14-15 美幌博物館自然講座「カワシジュガイについて知ろう〜魚と貝の不思議な関係〜」
 - 9/1~30 はくぶつかんクイズラリー 〜あなたも美幌はくぶつかん博士だ!〜
 - 9/2 美幌博物館自然講座「不思議で面白いトンボのくらし」
 - 9/29 美幌博物館歴史講座「アンギン編みに挑戦しよう(初級)」
- 北網走北見文化センター(0157-23-6742)
 - 7/14~29 安藤瑛一の世界〜土着陶芸家の作品展〜
 - 8/30~9/6 第41回市内小・中学校夏休み作品展
 - 6/16~8/18 シルクスクリーン講座
 - 7/8 楽しい自然観察会、夏のワッカ原生花園を訪ねて
 - 7/26 夏休み自然体験教室
 - 7月~10月 天体観望会
- 北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)
 - 7/14~10/14 第27回特別展 東シベリア・サハ 永久凍土の大地に生きる
 - 7/14 氷と寒さを利用する文化:サハの生活と社会
 - 8/4 革で作るトーテム・ボールのペンスタンド
 - 8/25 東シベリア・サハの楽器・口琴体験

- 8/25 東シベリア・サハの刺繍
- 8/26 東シベリア・サハの料理
- 9月中旬 フィンランドにおけるサーミ文化の現状と博物館2
- 9/22 シベリア風さようざりメロニを作ろう
- 10/6 サケ料理〜サケバーガー作り
- 紋別市立博物館(0158-23-4236)
 - 7/21~8/19 企画展「アートとの対話〜国松登・明日香 受け継がれる魂」
 - 9/15~10/21 企画展「器の世界〜原始土器から現代陶芸へ」

十勝

- 帯広百年記念館(0155-24-5352)
 - 7/5~29 ロビー展「昭和からの伝言〜荘田喜與志写真コレクション8」
 - 8/4~9/30 特別企画展「発掘された十勝の遺跡〜十勝平野の人類史3万年」
 - 10/6~28 ロビー展「十勝の鉄道史写真展」
 - 7/7 博物館講座「森の掃除屋さん〜虫たちのはたらき」
 - 7/7-14-21 「親子陶芸教室」
 - 8/4 特別企画展講演会「考古学のいま」
 - 8/4 「親子七宝教室」
 - 8/11 博物館講座「こわい話 朗読の世界」
 - 8/18 博物館講座「緑ヶ丘公園の秋の植物」
 - 8/26 郷土学習見学会「十勝平野の生い立ちを探る」
 - 9/2 博物館講座「ふりり帯広 えきなん〜みどりがおか」
 - 9/9 特別企画展セミナー「十勝の考古学最前線」
 - 9/15 博物館講座「レコードと音の文化史」
 - 10/14 博物館講座「なぜ博物館で「鉄道資料の収集と保存」
 - 10/20 博物館講座「民具からみるアイヌ文化」
 - 10/27 博物館講座「アイヌ語で自然かんさつ」
- 神田日勝記念美術館(0156-66-1555)
 - 6/26~10/21 平成24年度第1期常設展「神田日勝と静物」(仮称)
 - 7/24~8/12 「選ばれし者たち」(会場:鹿追町民ホール)
 - 8/14~26 「北海道 紀の作家たち」(会場:鹿追町民ホール)
 - 9/4~23 「新出紀久雄と水彩画の仲間たち」
 - 10/23~12/9 平成24年度企画展「神田日勝と新具象の画家たち」
 - 10/2~9 第18回馬の絵作品展(会場:鹿追町民ホール)
 - 8/26 第20回馬棋展(会場:鹿追町民ホール)
- 北海道立帯広美術館(0155-22-6963)
 - 6/29~8/29 棟方志功展-版に込めた思い-
 - 6/29~8/29 十勝の美術
 - 9/7~11/7 オフ・アート展
 - 9/7~11/7 田園に謳う-バルビゾン派の眼差し-
 - 7/7 映写室
 - 7/14-8/11 特別展セミナー
 - 7/28-10/27 キッズ・ツアー
 - 8/4 キッズ・ミュージアム
 - 8/25 映写室
 - 9/22 美術講演会
 - 9/29-10/13 ギャラリー・ツアー
- 浦幌町立博物館(015-576-2009)
 - 7/3~7/31 収蔵資料「懐かしき昭和の生活展」
 - 8/4~8/19 収蔵資料「真夏の残像」戦争展
 - 8/23~9/30 「天・地・海展」
 - 9/11~28 開拓当時の農機具展
 - 7/3-4-17-18,8/7-8-21-22,9/4-5-18-19 アイヌ文化実践上級講座
 - 7/14 博物館ミニ移動講座「史跡」
 - 7/21 博物館収蔵資料レコードコンサート
 - 7/28 博物館ミニ移動講座「地学編」
 - 8/11 博物館ミニ移動講座「恐竜絶滅の謎」(K-T境界層)
 - 8/18 博物館ミニ移動講座「夏の草花」
 - 8/25 博物館ミニ移動講座「史跡」
 - 9/15 博物館ミニ移動講座「秋の草花」
 - 9/29 博物館ミニ移動講座「開拓時代の食物」

釧路

- 釧路市こども遊学館(0154-32-0122)
 - 7/24~8/16 夏休みイベント2012
 - 9/15~17 宇宙の日イベント
- 厚岸町海事記念館(0153-52-4040)
 - 7月中旬 特別展「海のバネル展」
 - 10月下旬 ほしぞら教室
- 標茶町郷土館(015-487-2332)
 - 9月~11月 自然系登録資料移動展「標本に隠された秘密」
 - 7/14 「縄文土器を作ろう」
 - 8月上旬 郷土館講座「しべちゃ映画物語:森と湖のまつり」
 - 9月 共催事業「とらるのむかし」を語る会
 - 10月 郷土館講座「ものがたりのかんざつかい〜標茶編〜」
- 北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)
 - 7/7~9/5 地球どうぶつ写真展 岩合徳光・岩合光昭・いのちのバトン
 - 7/24~8/16 キッズ・アトリエ 夏休みスペシャル
 - 7/28-8/25-9/29-10/20 アートシネマ館2012「クラシック映画の決定版」
 - 8/19 ミュージアム・コンサート「阿部海太郎コンサート」
 - 9/2 パフォーミングシアター2012「ピエロ☆バントマイムショー」
 - 9/14~11/23 フランス絵画の巨人 クールベ展 美は現実の中にある
 - 10/2~8 レコード・ジャケット展

根室

- 根室市歴史と自然の資料館(0153-25-3661)
 - 6/15~7/31 歴史と自然の資料館企画展「道東のコウモリ展」
 - 7/26 コウモリ観察会
 - 7/4-18,8/15,9/5-19,10/3-17 藤野家文書読誦会
 - 7/14~9/17 絶滅ほ乳類の世界展
 - 9/19 星座観察会(秋)
 - 9/16 自然観察会 秋の自然観察会
 - 10/4~8 第45回科学の夢の図画コンクール